

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950480010		
法人名	医療法人景雲会		
事業所名	グループホーム アゼリア		
所在地	甲州市勝沼町菱山中平4300		
自己評価作成日	令和4年10月4日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが興味を持てる事や、能力を引き出すような事を、クラブ活動やレクリエーション活動として行っており、利用者の意見を聞き、遠足や外食等も楽しんでます。また、地域交流を心がけ、イベントに参加したり、地域のボランティアの方と一緒に楽しんでいます。特に春のよもぎ饅頭作りや梅漬け、秋の干し柿作り等には利用者の経験や知恵を拝借し、毎年おいしい物ができています。しかし現在コロナ禍において縮小せざるを得ない事もありますが、できるだけ屋外での活動を行うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の立地場所は山手の坂の多い所で、外への散歩は難しい状況です。しかし、法人内の本館と新館の間の通路を活用して、日常的な散歩が行われています。また、通路には季節を感じられる花が植えられ、利用者の憩いの場所になっています。職員が利用者を人生の先輩として敬う気持ちを根底において、利用者を第一に、家庭的で楽しく過ごせることを目標に支援が行われています。敷地内にある小さな畑で、なす・きゅうり・とまと・じゃがいも・さつまいもを栽培し、おやつの際に味わったり、収穫祭等のイベントを催して楽しみの場を設けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <b>(コロナ禍以前)</b> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) <b>(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <b>(コロナ禍以前)</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームアゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念のもと、方針・目標を明確にし、管理者と職員で話し合う機会を設けているが、現在コロナ禍で積極的に活動できていない。	左記同様	事業所の理念は共有空間のテレビの下に掲げられています。毎年理念に沿って具体的な実施目標を立てているが、今年度はコロナ禍の中で実践されていないことでした。法人本館には、法人の理念である「品良く・明るく・優しい介護」が掲示されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、絵手紙教室、小中学生、保育園、ボランティアとの交流ができない。	左記同様	地域は高齢化や住宅が点在していることから、地域住民が気軽に行き来できる環境ではなく、交流は困難とのことです。保育園との交流では、コロナ禍の中でビデオレターでのお便りや、手作り品を贈ったりする方法を取り入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員間で話し合いの場は持っているが、実施にはまだそのような機会がないのが現状である。	左記同様		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の割合で開催しており、実際に取り組んだ内容や、今後の活動等について報告していましたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、市役所介護支援課の方と相談しながら開催したり、文書での報告となっている。	左記同様	会議は活動内容等の報告や文書による情報交換を中心に実施されていましたが、事業所側の発案で、行事の様子をビデオにして見ていただく等、新たな取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、連絡、相談、報告にて情報交換している。	左記同様	コロナ禍の影響もあり、担当者との情報交換が中心になっています。過去には他施設との研修会(災害・認知症)や、ボランティアと一緒にオレンジカフェが行われていたましたが、できていない状況です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束をしない事を学習し理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	左記同様	法人の委員会を中心に各事業所による研修が実施されています。現在は身体拘束を必要とする場面はないとのことですが、必要になった際のマニュアルは整えてあるとのこと。日頃注意しているスピーチロックに対しては、言葉の置き換えにより対処しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。集団研修会は少しずつ開催している。	左記同様		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会において、制度について学び理解した上で、それについて話し合う場を持っている。	左記同様		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず、理解・納得して頂けるよう説明し同意を得ている。	左記同様		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームアゼリア	外部評価		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対し苦情処理に関する概要を提示している。また、利用者の意見も傾聴し不平不満等を受け入れケアや運営に反映している。家族とは感染症対策の為、ライン面会をお勧めしたり、電話等で情報交換、意見を聞いている。	左記同様	面会については携帯やタブレットを用いたライン面会ではしたが、家族から直での面会希望が上がってきたことで、アクリル板越しの面会の場を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3密を避け、感染防止を行い、会議棟で各職員と意見交換をする場を持ち反映させている。	左記同様	会議等による職員からの意見交換の場の他に、職員の要望に応じて個別の面談の場を設けて意見や要望を聴取しています。職員からは、利用者の重度化への対応として、転倒防止の機器の導入についての要望が出され、法人によって迅速に導入された経過があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議棟で話し合いの場を持つたり、アゼリア内で勉強会等を実施する中で、職員が向上心を持って働く事ができるよう努めている。	左記同様		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーション及び新人教育の実施。通常ではその後、内部研修・外部研修への参加を促し、外部研修受講者は職員への伝達講習を必ず行うようにしている。現在外部研修は減少している。	左記同様		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており情報を得ている。協会においてもコロナウイルス感染症予防の為研修会は行われていない。	左記同様		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入職時に本人と話をする機会を十分に持ち、受け止める努力をしている。	左記同様		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の希望要望を聞き、サービス計画書に反映している。また、サービス提供のサインを頂く時にも充分話を聞く。	左記同様		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は可能な限り対応できるように努めている。	左記同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	“共に生きる”“できない事をサポートする”等の視点で毎日支援している。一つの家族としての考え方で支援している。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームアゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においてオンライン面会のみとなっている。家族とは電話にて状況説明し、家族の希望を聞いたりしている。	左記同様		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でできていない。	左記同様	コロナ禍で出来ていないとありますが、以前は美容院やお寺などに行かれたり、入居前の近所の知り合いの訪問があったとことです。家族による、かかりつけ医受診の際に、馴染みの人に会う機会はあるとことです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支えあう事ができるように、さりげない声かけや働きかけをしてサポートしている。	左記同様		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人及び家族から相談を受けた場合は必要に応じて対応している。	左記同様		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人及び家族が話し合う事は困難だが、職員を通じて、本人の意向に沿えるようにしている。	左記同様	利用者を担当している職員によるミニカンファレンスが行われて、ケアマネによる介護計画作成後に全体で周知、共有の場を設けています。特に、利用者に対して統一した対応が取れるよう共通認識に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族との面談を行い情報収集し、本人の把握に努めている。	左記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等を活用して情報を共有し、利用者の現状を把握するよう努めている。	左記同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を第一に考えながら、家族の意見や要望を聞いたり、カンファレンスの中で職員が意見を出し合いながら検討し、作成している。	左記同様	介護計画は本人の思い、家族の意向を大切に、担当、ケアマネを中心に作成され、モニタリング、見直しが行われています。特に入所の際は、法人が運営する老健の相談員も介護計画の作成に携わっています。介護計画は利用者の身体的・精神的な変化に応じて随時計画を変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に記入し、情報の共有を行い、ケアや介護計画に反映している。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームアゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族のニーズに合わせて、職員が随時対応している。	左記同様		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の状況にて、地域やボランティア活動への参加はできていない。	左記同様		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	提携の医療機関や、近隣の総合病院等と連携をとり、いつでも相談できるような体制が確保されている。また、かかりつけ医とも常に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。	左記同様	入所者のほぼ全員が、かかりつけ医を継続しています。ただ家族が遠方であったり、車の運転が困難な家族については、事業所の往診医を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の老健の看護師に相談する等して支援している。	左記同様		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は面会ができないため、家族や病院関係者と情報交換しながら、早期退院に向けて話し合いをしている。	左記同様		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで、そのような体制はとっていなかったが、現在、重度化した場合や、終末期におけるケアを行っていく方向で検討中である。	左記同様	入所に際して、緊急搬送時の対応について、また延命の是非について入所情報の中で把握しています。事業所として看取りの方向を検討していますが、ドクターの対応の面で課題を抱えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、併設施設の看護師の指導の下、万が一事故が起きた場合には、それにのっとり対応できるように学習している。	左記同様		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、日頃から職員同士で確認しあっている。また、年2回地元消防署の防災訓練及び指導を受けている。それ以外にも3か月に一度の割合で防災訓練を行っている。	左記同様	事業所はハザードマップでは土砂災害危険区域に含まれているとことで、防災訓練(火災・地震・土砂)は定期的を実施されています。土砂災害では、グループホームは1階になっているので、敷地内のセンターの4階に非難する対策がとられています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あくまでも、利用者は人生の先輩であるという事を念頭に置き、言葉遣い等に気を配り、その場の状況を見て言葉かけや対応をしている。	左記同様	事業所では利用者の居室の扉の開閉、トイレへの誘導の際の言葉かけは特に注意を払っています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームアゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に意見や希望等表す事ができる雰囲気作りを心がけている。	左記同様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、一緒に過ごす時間を多く持ち、共に生活を楽しむ中で、希望に沿うよう支援している。	左記同様		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室を利用して頂いている。希望の髪型等に 対応できるよう支援している。	左記同様		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理を行っている。また、職員も利用者と共に食事をとり楽しく過ごしている。	左記同様	食事はモバイルにより提供されており、調理の場面はないとのことです。しかし、利用者には盛り付けや配膳、テーブル拭きの役割を担ってもらっています。イベント等の企画の際は、モバイルでの提供は止めて利用者の希望するメニューを楽しんでいます。敷地内にある畑で収穫された野菜を収穫して、おやつ等で召し上がる機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量等一人ひとり把握し記録している。	左記同様		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ等を行い、口腔ケアを促し、一人ひとりに合わせた方法で支援している。	左記同様		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックして、さりげない声かけや誘導を行っている。	左記同様	一人ひとりの排泄パターンに留意して支援されています。なお、拒否のみられる利用者には時間や声掛けする職員を変えたりして対応しています。利用者が負担する介護用品については、安くて良いものを導入して利用者負担の軽減も考慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食事前に、利用者全員がラジオ体操を行い、牛乳を飲む事を日課としており、食物繊維や乳酸菌を含む食品を多く摂り入れる工夫をしている。また、レクリエーションでも適度な運動を行う等して、便秘予防を図っている。	左記同様		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れるように配慮し、入浴を楽しめる事ができる支援をしている。	左記同様	入浴はユニットバスで個別で介助されています。基本は好きな時間に入っていたくことになっていますが、週に3日をめぐりに支援しています。職員は全員が女性のため、男性には女性が介助に入っています。背景には男性職員の応募がないとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活が活動的になるように働きかけ、安眠できるよう支援している。眠れない時は温かい飲み物を提供したり、話し相手になる等して眠れる環境を作っている。	左記同様		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームアゼリア

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(本館)	ユニット名(新館)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の作用や副作用、用法等を個人ファイルに綴り、全ての職員が情報を共有した上で服薬の支援をしている。また、必要に応じて提携病院の薬剤師に相談できる体制も整えている。	左記同様		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人及び家族から、これまでの生活歴を聞き把握した上で、過去の経験を活かして得意な事に力を発揮する事ができるよう支援している。	左記同様		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の畑を見に行ったり、近所を散歩したり、敷地内で可能なレクリエーションを工夫している。	左記同様	事業所周辺は坂道であり、戸外への散歩は困難な環境です。よって敷地内の本館と新館の通路を散歩していません。コロナ禍ということでドライブでの外出になってしまうが、桜の花の名所や公園、ハーブ園等、利用者が楽しめる場所を選んで実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いをホームで預かっているが、ホームの買い物に出かける時、本人の希望する物を購入してきている。	左記同様		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と散歩がてらポストに手紙を出しに行ったり、公衆電話がある場所まで行き、本人自ら電話をしている。また、携帯電話を所持している利用者もいる。	左記同様		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は適度な明るさを保ち、テレビやBGMの音量も気にならない大きさに配慮している。	左記同様	共有空間は採光や音に留意されていますが、他にも季節の飾り物や、花を飾るなど明るい雰囲気になるよう配慮されています。その日の利用者の機嫌等により空間が不穏な状態に陥ったときは、言葉がけに留意して、みんなが気持ちよく過ごせる雰囲気づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室やベランダがある。また、外にはベンチが置いてあり、一人ひとりの時間を過ごしている。	左記同様		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂き、本人及び家族と相談しながら、配置場所も考慮している。	左記同様	事業所は利用者の居室にベッドのみ設置していることです。利用者は入居前から使い慣れたタンス・テーブル・こたつ・テレビ・ハンガーラック・冷蔵庫等を持ち込んで、利用者なりに自由にレイアウトしています。男性利用者は比較的あっさりとした居室になっているようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等に手すりを設置し、流し台や物干し等の高さも使いやすいように工夫している。	左記同様		